CENTURY

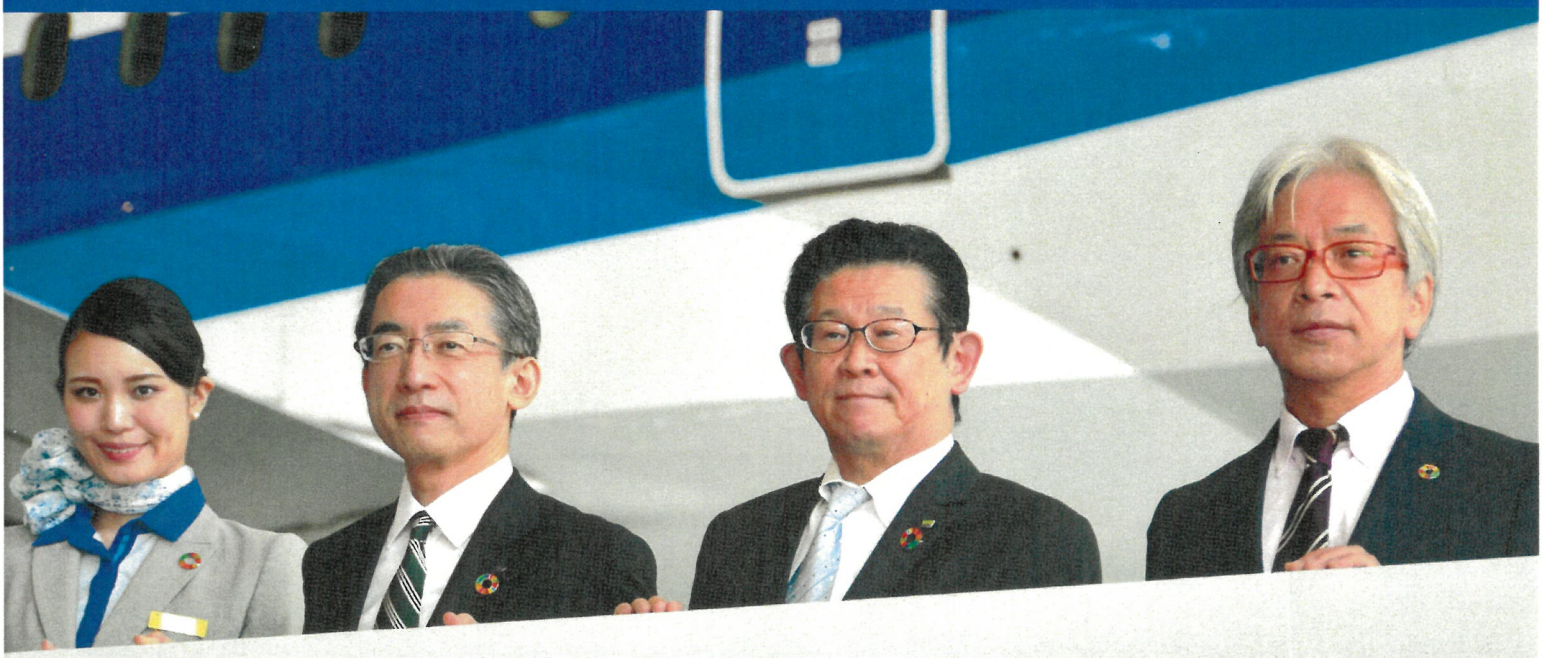
セ ン チ ュ リ ー

■地域を育む人と企業
■地域で活躍する職人たち
■暮らしを支える生産者たち
■人々の心に寄り添う 医療・福祉
■時代と人をつなぐ スペシャリスト
■人を、未来を育てる
■Food, Drink, Salon and ... SHOP
■心のふるさと 社寺めぐり

2021. 12
VOL.296

■巻頭特集

セネカの死と「人生の短さについて」



SAF Flight Initiative

NIPPON EXPRESS

■cover story

持続可能な航空燃料SAFの普及活動を通じて航空業界に“ファーストムーブメント”を起こす

PICK UP

THE PERSON

ZEROPLUS㈱
代表取締役

荒津寛

●対談記事は46・47頁に掲載

KEY WORD

循環
— junkan —

自ら運営するフィリピンでのオークションを利用することにより、
遺品整理・不用品回収の低価格化を実現している『ZEROPLUS』。
不必要と見做されたものを活かす道を一貫して模索し、
ビジネスのサイクルを回し続けるこの事業は地球、そして人にとって有益だ。
今や「エコロジーであること」は世界中の人々に課せられた課題であり、
それを軸とする同社の姿勢は、どの企業も見習うべきだろう。
さらに今はリユース事業、障がい者支援事業を展開している最中で、
今後も人々の幸福に寄与するためビジネスモデルを生み出していく構えだ。

「私のビジネスの根幹にあるのは『エコロジー』の精神なんです」

代表取締役 荒津 寛

大阪府出身。学業修了後は建設業の世界へ入り、様々な場所を転々としながら仕事をこなす日々を過ごした。約12年前に愛知県豊橋市に移住し、産業廃棄物関連会社に入社。そこで出会った大手リサイクルショップの社長からの応援や融資を受け、2015年ごろに『ZEROPLUS』を設立した。遺品整理及び不用品回収などを主に手掛けている。

構築したリサイクルシステムを活用し遺品整理・不用品回収事業を手掛ける

不用品を回収し、自社で運営しているフィリピンのオークションに出すことにより、遺品整理などのサービスの低価格化を実現している『ZEROPLUS』。同社の荒津社長はエコロジーに対する意識の高さが顕著な人物で、紡いできたつながりを上手く使いリサイクルのシステムを構築し、人や社会のためになる事業を展開しているのだ。本日は社長のもとを俳優の大沢樹生氏が訪問し、インタビューを行った。

――まず、荒津社長の歩みから。

社会人の一歩目は建設業でした。地元である大阪を離れたのは20代前半のころで、そこからは左官や大工などの仕事を軸にしながら様々な場所で働きましたね。そして現在の拠点であるここ愛知県に来たのが12年ほど前です。移住に際し、産業廃棄物関連会社で働き始めました。当初は知り合いもなく、全くのゼロからのスタートでしたが、キャリアを積むにつれて地域にコネクションも増えていきました。その中でも人生の転機になったのは、とある大手リサイクルショップの社長との出会いでしたね。その方が「起業するなら、応援するよ」と言って下さったんです。そして仕事の効率的なやり方を教えていただいたり、当社立ち上げのための融資もしていただいたんです。その社長の存在がなければ、今の当社はありません。本当に感謝しています。

――良い縁に恵まれたんですね。では、『ZEROPLUS』さんの創業はいつですか。

2015年ごろですね。当社では主に遺品整理や不用品回収・買取を手掛けています。特色は、回収した不用品を、当社で運営しているフィリピンのオークションに出品して廃棄コストを削減することで、より低価格での遺品整理を行うことができるという点です。この流れを思いついたのは、以前産業廃棄物を扱う仕事をしていた時に日本の家具などがフィリピンで売られている事実を知ることができたからです。日本の製品はフィリピンでの人気も高いですし、当社のオークションに出品したいという方々も多いんですよ。

――つらい状況下にある、遺品整理を依頼する顧客側の気持ちとしては、低価格なのは本当にありがたいですよね。

遺品整理などを行う業者の方々には、もちろん誠実に公正にやっている方々もいるのですが、中にはお客様に当初の見積もりよりも格段に高額な請求をする業者も存在します。お客様となるご遺族は悲しみの中にいて、思い入れのある品々を泣く泣く処分しなければならない状況ですから、そんな方々の力になりたいという気持ちが我々の根底にあるので、価格の部分では少しでもお客様に寄り添えるようにしています。場合によっては、当初の見積もりよりも荷物が多いというケースもありますが、お客様に追加の請求をすることもありません。

遺品整理は何度もあることではありませんが、お客様が「良かったよ」と言って別のお客様に紹介して下さり、今も徐々に仕事が増えていっています。また、この近辺で一番大きな葬儀会社様とも取引できるようになりまして、葬儀の後の遺品整理を頼まれるようにもなりました。

――真面目に、地道に取り組んできたことがしっかり評価されたわけですね。御社は今後もさらなる成長が期待できそうです。

今後もエコロジーの意識を強く持ち、さらなる事業展開をしていく予定です。今は先ほど述べた業務以外に、某大手家具販売会社がこれまで廃棄していた売れ残り商品を、当社を通じてその会社の店舗のない国へ輸出するリユース事業にも取り組んでいるんですよ。この他にも、今年9月からは障がい者支援施設も運営しています。そこでは当社が引き取ったものをメンテナンスで綺麗にする仕事を任せているんです。障がいを持つ方の中には単純作業が得意な人が多くおられるので、就労支援になると思

▲実際にオークションに出品された商品の一部

▲フィリピンで行われるオークションの様子

ZEROPLUS 株式会社

愛知県豊橋市吉前町字西吉前新田 161-4
URL：https://www.kaishu-zeroplus.net/

check Point

▼荒津社長が『ZEROPLUS』の従業員に対しいつも言っているのは、「失敗しても責任は自分が取るから、思い切ってやってみろ」という言葉。従業員が責任を重荷に感じることなく、イキイキと仕事に励んでほしいという一心でそう語っているのだ。その影響か、同社の従業員は伸び伸びしていて前向きな方が多いのだそう。

▼社長が自ら責任を負ってまで従業員の背中を押し続ける理由は、何より皆に良い生活を送ってほしいからだ。それを表すように、社長は「自分が育てた人材が成功を掴むことほど嬉しいことはありません」と微笑みながら語ってくれた。また、いつかは従業員が自分のもとから独立し、共に仕事ができるようになれれば、と考えている。

い、始めました。

――いずれも関わる人全員が得をする、意義深い事業ですね。お話も尽きませんが、最後に社長の今後の抱負をお伺いします。

掲げるビジョンは口に出して言わないと実現しないと思っています。そんな私の今の目標は、10年後までに年商100億円を突破することです。「人を裏切らないこと」、「嘘をつかないこと」、「言ったことはやる」の3つをモットーに歩み続ければ、着実に会社を成長させ、目標に到達することができると私は信じています。

●ゲストインタビュアー：大沢 樹生（俳優）

「顧客側の気持ちに寄り添おうとする荒津社長の姿勢に感銘を受けましたよ。そして自らと関わる皆が幸せになれるようなシステムを構築し、実際に多くの人々の笑顔を作り出されています。理想を語るだけでなく、有限実行できる人物、それが社長なんですね。今後も柔軟にアイデアを生み出し続け、『ZEROPLUS』さんがさらなる発展を遂げることは想像に難くないです。私も陰ながら応援させていただきますよ！」